地域課題の解決に向けた取組

外国樹種見本林での取組について

上川中部森林管理署

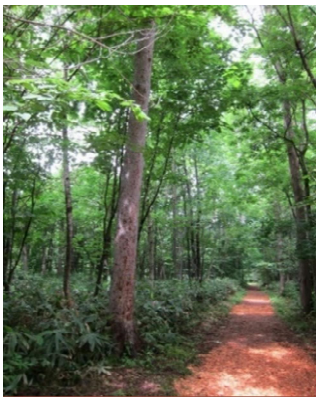
【はじめに】

外国樹種見本林は、JR 旭川駅から南西に 1.3km 美瑛川のほとりに位置しています。1898 年（明治 31 年）に当時の苗木生産技術のあった外国樹種を中心に、ストローブマツ、ヨーロッパアカマツ、ヨーロッパカラマツなどを展示するために造成されることになった御料林で、北海道で最も古い外国樹種の人工植栽地となる森林の一つです。1970 年（昭和 45 年）に自然休養林（嵐山・神居自然休養林見本林地区）へ指定、旭川市など地域関係者による嵐山・神居自然休養林管理運営協議会の発足、1998 年（平成 10 年）に三浦綾子記念文学館が設置され、旭川市の発展とともに見本林隣接地にも住宅が増え、多くの市民や観光客が訪れる憩いの森となっています。

【外国樹種見本林の現状】

2004 年（平成 16 年）台風 18 号の猛威の前に大きな木を中心に風倒の被害を受け、大面積で樹木の失われた箇所が発生しました。これを機に、旭川市、地元町内会、NPO、三浦文学関係者などの手により復活に向けた活動が進められ、現在は、地域企業による CSR 活動やボランティアによる遊歩道を中心とした整備、旭川市が実施しているシニア大学などの生涯学習の場としての利用に受け継がれているところです。

一方で、当初植栽した木々については、樹高 20m を超えている樹木も多く、枯れた樹木も目に付くようになってきました。また、産業管理外来種となったニセアカシアは当初造林樹種として植えられていましたが、繁殖力が旺盛で見本林のあちらこちらへ勢力拡大している箇所もあります。



施設などへの倒木の恐れ、住宅地への落ち葉やニセアカシヤ等の繁茂による苦情など、都市近郊林ならではの問題を抱えています。

【外国樹種見本林整備の取組】

地域企業やボランティアなどの協力で、草刈り、ごみ拾い、歩道への木材チップ敷、枯れ木の伐採などを行っています。また、見本林内に確認されている枯れた樹木について、当署としては限られた予算の中から施設近くの高さがある枯れた樹木を、少しずつ伐採をしています。

【今後に向けて】

施設等の近くにある樹高 20m以上の枯れてしまった樹木の処理には高度な伐採技術が必要となるため、一般的な森林整備よりも困難ではありますが、地域の皆様方のご理解を得ながら、嵐山・神居自然休養林管理運営協議会などとも協力をしつつ、地域一体となった取り組みとして行きたいと考えています。